



第 25 号

発行日 令和元年 10月 8日

発行 関屋小学校区コミュニティ協議会

編集 同広報部会

協力 新潟市立関屋中学校

同校地域教育コーディネーター

新潟市関屋地区公民館



「南一番組」は、新潟まつり「住吉行列」の供奉（行列をお供する）団体の一つです。

かつてはたくさんのお供団体がありましたが、現在は、学校町・関屋下川原・関屋田町・白山浦地区は南一番組が供奉しているほか、八番組（白山小学校区）、百巻番組（新潟小学校区）と、江東地区まつり実行委員会（万代・長嶺地区）が担当しています。



関屋田町



昭和48年に関屋田町で祭り協賛会が発足した頃、関屋小学校の器楽部が全国大会で表彰され、部員と経験者が関屋田町には多くいたので、他の地域に無い鼓笛隊をOBや保護者の協力によって編制されました。

学校町



菅原神社でお祓いを受け、平安会堂からスタートします。約2kmを子どもは花みこし、大人は本みこしの、計4台をかついで回ります。最後は神社に戻ってきお祓いを受けます。



関屋下川原



樽太鼓と和太鼓という違う音の太鼓があり、そこに笛も加わるというのは関屋下川原町だけです。そして3つの音が響くので祭りがにぎやかになります。人に見せるためではなく、楽しむための演奏をするのでとても盛り上がり楽しいです。

町内を奏でる軽快な音色と 華やかなパレードで祭りスタート

南一番組各供奉 スクラム組んでまつりが大盛況!

Q 参加人数は毎年変わりますか。また、この祭りにどんな関係がありますか。
A 子ども神輿や鼓笛隊は、小学生が中心。近年は小中高齢化の影響で毎年変わってきます。
Q なぜ曲のレパートリーを広げることができないのですか。
A 少子高齢化の影響で入隊する人

Q 参加人数は毎年変わりますか。また、この祭りにどんな関係がありますか。
A 子ども神輿や鼓笛隊は、小学生が中心。近年は小中高齢化の影響で毎年変わってきます。
Q なぜ曲のレパートリーを広げることができないのですか。
A 少子高齢化の影響で入隊する人



樋口和道さん【関屋田町祭り協賛会副実行委員長及び地域ボランティアグループ関屋田町青年部メンバーの幹事】

が少ない年があります。特にキラキラパレードで榎谷小路などの広い道路を行進するときは、少ないと見栄えがよくないので、浜浦小学校の児童や卒業生に手伝ってもらったり、入隊する人の対象を広げています。他にも暑い中でやる行進の体調管理や、減りつつある寄付を集めることが大変です。



Q これから鼓笛隊をどうしていきたいですか。
A 南一番組の中でも

インタビューは関屋中学校1年生の生徒さんです 関屋地区のみなさん、どうぞよろしく...



Q 吉田さんはいつからこの祭りに関わっているのですか。
A 小学校1年生からこの祭りに参加しました。企画側として参加したのは20歳からです。
Q 準備から本番まで、嬉しいこと、また大変なことはありますか。
A 準備では、みこしを3日間かけて飾り、華やかに出来上がった時が嬉しいです。当日は大変なことは、道中に行かぬようにすることです。



吉田幸さん【新潟まつり学校町奉賛会】御菓子司よし仙の専務で、子どもの頃から祭りに参加し、祭りの仕掛け人として企画制作の責任者

どもたちに喜んでもらい、「楽しかった」と言ってもらえることがなにより嬉しいです。
Q 今後の目標として、これからこの祭りをどのようになりたいと考えていますか。
A 子どもたちにもっと喜んでもらえ

手造り花みこしと威勢のよい 掛け声の本みこしが響く

Q 吉田さんはいつからこの祭りに関わっているのですか。
A 小学校1年生から約20人が戊辰公園で練習を行っています。横笛も5人ほどいます。単調なリズムな

ので、早い人は3日ほどで覚えます。関屋地区では多くの人が樽ばやしをたたけるといいます。
Q 大変だったり難しかったりすることはありますか。
A 樽ばやしの山車は柱を組み立て、祭りが終わったらその日のうちに解体するので、若い人がいないと大変です。



Q 子どもが主役の花みこしはどうしてこの祭りは始まったのですか。
A 住吉様というにぎやかなことを喜ぶ神様のためです。
Q 参加人数は少子化により年々縮小傾向にあるということですが、一番盛んだったときはどのくらいの人数でしたか。
A 一番多い時で大人60人くらい、子ども200人くらいでした。とてもにぎやかで今では大人が作っている花みこしも、子どもが土台の発泡スチロールに花をさす手伝いなどをしていました。

Q 準備から本番まで、嬉しいこと、また大変なことはありますか。
A 準備では、みこしを3日間かけて飾り、華やかに出来上がった時が嬉しいです。当日は大変なことは、道中に行かぬようにすることです。



小林修平さん【関屋下川原町祭り実行委員長】関屋下川原町三ツ葉会の創設メンバーのリーダーで和太鼓の中心的存在

受け継ぐのは私たち
Q この祭りのメインとなるものは何ですか。
A 樽ばやしで「新潟甚句」を演奏し、和太鼓と笛で祭りを盛り上げています。
Q 祭りってどんなことを行っていますか。
A 「新潟まつり」の2日目にキラキラパレードへの参加、3日目にはトラックで関屋下川原の地域をまわりながら演奏します。
Q 困っていることは何ですか。
A 演奏で使う樽太鼓の寄付が集まらず買い換えできないことです。
Q 目指す演奏はどんなものですか。
A みんなが楽しんで演奏できるように。完璧を

地域に根付いた 関屋の子ども祭り太鼓

祭りに必要な太鼓は必需品
Q いつから太鼓を使った祭りをしていますか。
A 約50年前から樽ばやしが始まりました。平成29年から和太鼓を購入し「沼垂木遣り会」からの応援を受けて始めました。樽太鼓は傷み易く毎年町内から寄付してもらったお金で取替、補っています。
Q どれくらいの人数でやっていますか。
A 小学校1年生から約20人が戊辰公園で練習を行っています。横笛も5人ほどいます。単調なリズムな

求めるのではなく、太鼓を通して祭りを楽しんでもらうことを目指しています。
Q 今の中学生に伝えたいことは何ですか。
A 祭りは一人ではできず、たくさん人の協力が必要です。だから今の若い人たちにもどんどん祭りに参加してもらい、人々を楽しませる喜びを知ってもらいたいのです。

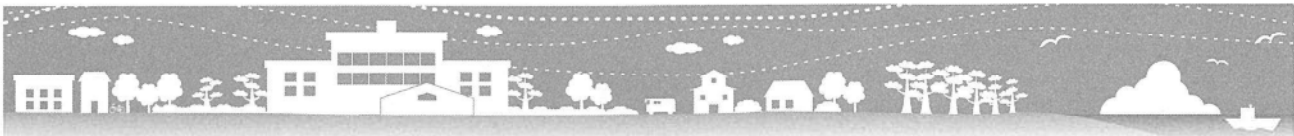
Q これから鼓笛隊をどうしていきたいですか。
A 南一番組の中でも

鼓笛隊があるのは関屋田町だけでなく、毎年依頼があります。また祭りをすることで、地域の人の交流ができ、それが親から子へと伝わることで地域の輪が広がります。ですから先ほど挙げたようにたくさん課題はあるが、それを乗り越えて伝統ある鼓笛隊を続けていきたいです。

Q 子どもが主役の花みこしはどうしてこの祭りは始まったのですか。
A 住吉様というにぎやかなことを喜ぶ神様のためです。
Q 参加人数は少子化により年々縮小傾向にあるということですが、一番盛んだったときはどのくらいの人数でしたか。
A 一番多い時で大人60人くらい、子ども200人くらいでした。とてもにぎやかで今では大人が作っている花みこしも、子どもが土台の発泡スチロールに花をさす手伝いなどをしていました。

Q 子ども用のみこしは、毎年作っているのですか。
A 1回に風船のついた山車1台と子ども、大人みこしを合わせて4台出します。この山車は毎年風船屋さんに作ってもらいます。花みこしは土台が痛むまで使いますが、外の花は毎年変えます。
Q 大人（小学校高学年以上）のみこしは、どうですか。
A 大人のみこしは中に神様がいますので、ずっと同じものを使っています。今使っている重いみこしは40年以上も使っています。

Q 子ども用のみこしは、毎年作っているのですか。
A 1回に風船のついた山車1台と子ども、大人みこしを合わせて4台出します。この山車は毎年風船屋さんに作ってもらいます。花みこしは土台が痛むまで使いますが、外の花は毎年変えます。
Q 大人（小学校高学年以上）のみこしは、どうですか。
A 大人のみこしは中に神様がいますので、ずっと同じものを使っています。今使っている重いみこしは40年以上も使っています。



薬局をもっと身近に！ 薬局を上手に活用しましょう

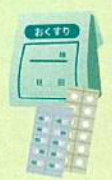
公益社団法人新潟県薬剤師会



新潟県薬剤師会では、みなさまに薬を正しく使っていただくため、さまざまな取り組みを行っています。

今回は、薬局をより身近に感じていただくためのお話をしたいと思います。

お薬の正しい飲み方



一般に、薬はコップ1杯程度の十分な量の水か、ぬるま湯で飲むように指示されています。水を用いずにそのまま薬を飲むと、薬が溶けにくくなり、食道にくっついて悪影響を及ぼしたり、胃に強い負担をかけることとなります。

それ以外の飲みもので飲むと、薬の効果にさまざまな影響が出てしまうことがあります。

また、薬はその人の病気の状態によって飲む回数や時間、量が決められています。勝手にその指示を変えたり、効果が期待できなかつたり、副作用が強くなる場合があります。薬剤師の説明をよく聴き、わからないことはなんでも聞いてください。

お持ちですか？ お薬手帳



お薬手帳は、処方された薬、アレルギー・副作用歴が記録されている大事な情報源です。必ず医師・薬剤師に見

せください。複数の医療機関や薬局にかかっている場合、1冊にまとめてお薬を管理しましょう。また、お薬手帳はご自身で書き込んでよいので、過去にお薬を飲んだ時に起きた体の変化や不都合など書いておくのもおすすめです。電子版お薬手帳もありますので、薬局でご相談ください。

かかりつけ薬局、 かかりつけ薬剤師を もちましょ。

どこの医療機関にかかっても、自分の飲んでいる薬の情報を1ヶ所で管理することが大切です。自分が一番気軽に相談でき、信頼のできる薬局を、あなたのかかりつけ薬局にきめましょう。かかりつけ薬局を決めておくと、あなたの使用するお薬（2ヶ所以上の医療機関からのお薬やOTC医薬品等）の重複や飲み合わせをチェックできるので、よりいっそう安全なお薬の使用が期待できます。さらに、いつも対応するかか

りつけ薬剤師を1人決めることで、あなたのお薬の情報をすべて管理でき、相談しやすくなります。

また、通院が困難な高齢者や病気の方々の自宅を訪問して、薬の飲み方や使い方などお薬に関する疑問点にお答えしたり、医師・看護師・ヘルパー等との連携をはかり、患者さんが在宅でよりよい生活を送ることができるようにあらゆる面で相談に応じています。薬剤師のサポートが受けやすくなります。

聞いてみませんか？ おくすりのお話



地域の集まりなどへ薬剤師が外向き、薬の正しい知識や使い方などについて説明します。講師派遣費用は無料です。希望日の1カ月前までに申し込んでください。詳しくは新潟県薬剤師会へご相談ください。
☎025-281-7730